

愛宕山古墳(深谷市)

正面前方が愛宕山古墳/方墳/7世紀末頃の築造/南東側から見る



墳頂には愛宕神社社殿が建つ/北東側から見る



南側から見る/右手に説明板がある



「史蹟 愛宕山古墳」の標柱も立っている



愛宕あたご神社

創立年代は不明であるが、岡部六弥太忠澄おかべ りくや たあきあきの信仰厚く、火防の神として崇敬されたと伝えられている。当社周辺は、往古より火難が多く、住民はこれに苦しみ、広大な山林中唯一の大塚上に愛宕明神を勧請し、火産靈命ひむすびのみことを祀ったと伝えられている。

江戸時代にはいると、岡部藩主安部氏あべは当社を火防の守護神として崇敬し、陰暦七月二四日は家来に至るまで、肉食・魚食を禁じ、氏子中においても、この日精進祭という神事を行った。

また、当社が祀られている大塚は、愛宕神社古墳と呼ばれ、町指定文化財となっている。本古墳は、一辺三七メートルの方形をなし、高さ五メートル五〇センチを測る。葺石むきいし、埴輪はじかの有無は不明であるが、形態からして、古墳時代末期（七世紀末頃）の築造と考えられる。本古墳は、方墳という特殊な形態を有しているが、この形態の古墳は関東地方においても数少ないものである。

平成三年三月

埼玉県

岡部町

裾には周溝が廻っていたという







こんな石造物もあった





新築された社殿が建つ





振り返って見る





西方向を見る



東方向を見る



さて、西側に回って墳丘を見る







北西側から見る



参考ホームページ

http://sgkohun.world.coocan.jp/archive/index.php/okabe_atago2/

<http://members3.jcom.home.ne.jp/kofun2-hp/saifuokab.htm>

